SABO NEWS LETTER

第78号【発行日】平成17年6月24日(金)【発行】(社)全国治水砂防協会

目 次

- 1 . 目次・行事予定 1
- 2 . 国土交通省砂防部長よりご挨拶 2

行 事 予 定

- 7/21 (木) 全国治水砂防協会東北地区協議会通常総会 (岩手県盛岡市)
- 7/27 (水) 全国治水砂防協会理事・顧問会議 (砂防会館霧島会議室 11:00 ~)

ご質問, ご意見、ご感想、記事の詳細内容等, お問合せ先

社団法人 全国治水砂防協会

担当 岡本, 宮内, 阿部, 畑川, 藤川

住所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館内

電話 03-3261-8386 FAX 03-3261-5449 E-mail: kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください

<http://www.sabo.or.jp/>

会員の皆様へ

去る5月18日、全国治水砂防協会の17年度通常総会が全国各地から会員の出席を得、また多くの国会議員も駆けつけていただき参加者がほぼ千名の盛会となりました。綿貫会長のご挨拶そして国土交通省岩村事務次官祝辞のなかに、我が国の自然災害を受けやすい国土の状況とくに昨年の続発した豪雨、台風、地震によって激甚な土砂災害が発生し貴い人命と多くの財産を失ったことに対し、今後も一層砂防関係事業を促進し、総合的な土砂災害対策を整備していかなければならないと述べられました。

今年度も経済財政諮問会議で「基本方針2005」が検討され、政府・与党の議論を経て、6月21日に閣議決定されました。

公共事業に関係するものとしては、

第3章 新しい躍動の時代を実現するための取組 少子高齢化とグローバル化を乗り切る

集中調整機関を経てバブル後の停滞を抜け出した日本経済が新しい躍動の時代を実現するには、財政構造改革を進めるとともに、国民の安全・安心を確保した上で、少子高齢化とグローバル化という大きな環境変化を前向きに捉え、プラスに転化していかなければならない。

2. 国民の安全・安心の確保

近年、地震、台風、集中豪雨等が続発し、大きな被害が生じている。国民の安全と安心を確保することは、政府の基本的な責務であるとともに、我が国の経済活性化の基盤である。

公共施設及び住宅等の耐震化等の大規模地震対策、治山治水対策をはじめとした防災対策投資等を推進する。

(次項へ続く)

第4章 当面の経済財政運営と平成18年度予算の在り方

2. 民需主導の経済成長を確実なものにするために 活性化のための政策転換

(4) 活性化を目指した歳出の見直し

(公共投資の重点化・効率化)

公共投資については、「改革と展望」に基づき「景気対策のための大幅な追加が行われていた以前の水準」を目安にして重点化・効率化に取り組んできており、その目安は概ね達成されつつある。平成18年度予算においても、目標の達成に向けてのこうした取組を引き続き着実に推進する。

3. 平成18年度予算における基本的な考え方

(聖域なき歳出改革の堅持・強化)

平成18年度予算は、重点強化期間最後の重要な予算であり、「改革の総仕上げ」のために、国・地方が歩調を合わせ、平成17年度に引き続き歳出改革路線を堅持・強化する。

これに先立って5月24日に開かれた第12回経済財政諮問会議に北側国土交通大臣が出席して、「社会資本整備のあり方」について議論がされました。

北側大臣から

1.平成17年度の公共事業予算の規模は、「改革と展望」で示された「景気対策のための大幅な追加が行われていた以前の水準」まで低下している

2.これ以上の公共事業の削減は、防災・地域再生・国際競争力強化などの緊急課題の対応に著しい支障を及ぼす

3.我が国の社会資本の整備水準は欧米諸国に比べ依然立ち遅れているにもかかわらず、公共投資が抑制されてきた結果、経済規模に対する公共投資の水準(対GDP比)は、欧米諸国とほぼ同じレベルまで低下している

と指摘し、今後、公共事業予算の削減を行う状況ではなくなっているとの認識等を主張されました。

(次項へ続く)

SABO NEWS LETTER 4頁

昨年の災害で、土砂災害が多発し国土の脆弱性と砂防対策の未整備、遅れが目立ちました。災害がおこってから対策より、起きる前の予防、減災対策が最も根幹であることは言うまでもありませんが、これだけ予算が削減されると災害フォローだけで精一杯で、計画的な予防対策に手が廻らない状況になってきています。より計画的に対策が実施できるようにするために、公共事業予算がこれ以上削減されないように取り組んでいかなければなりません。

梅雨期を迎える六月は、「土砂災害防止月間」です。

平成 17 年度土砂災害防止推進の集い[第 23 回全国大会]が、今月の 1,2 日にわたって鹿児島で行われました。今回のテーマは「土砂災害 みんなの力で早めの避難」で、過去から数々の土砂災害を教訓として経験を積んできた鹿児島県から、多くの具体例を交えながら、警戒避難に役立つ情報を発信することで、被害を最小限にとどめることを目的として開催しました。シンポジウムの進行のなかで、平成 9 年の出水市針原土石流災害を経験した出水市立米ノ津中学校の生徒、桜島の火山活動や土石流を想定して避難訓練をしている鹿児島市立東桜島小学校の生徒のみなさんが研究発表や映像出演などで参加協力してくれました。

また大会で、土砂災害防止功労者として 10 名の個人と 3 の団体が、国土交通大臣表彰を受けられました。特に今回は昨年の全国的な災害を反映してか、緊急時に的確に住民を避難誘導し「地域住民の生命又は身体の保護」に努めた方が例年より多く受賞されました。有難うございました。

月間を通じて、各地で土砂災害に対する周知、啓発活動が関係自治体と住民の参加により積極的に展開されるよう期待しています。

砂防部長 近藤 浩一